

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	あさがおねっと		
○保護者評価実施期間	2026年 3月 1日		2026年 3月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38	(回答者数) 29
○従業者評価実施期間	2026年 3月 1日		2026年 3月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	(多様なプログラム) 外部講師を招いた専門的なPC教室や体操教室をはじめ、日々のレクリエーション、クッキング、創作活動、外出支援など、静と動の動きを取り入れた活動プログラムを実施している。	・集団活動として毎日、利用児童に合わせたレクリエーションを行っており、SSTを学ぶ機会を設けている。 ・週間活動(手作りおやつ、創作)や月に一度のクッキング、外出支援など固定化されたプログラムについても毎月内容を変更して取り組んでいる。	・リクエストボックスを活用し、子どもたちのやりたいことを取り入れて活動プログラムへの意欲を向上させる。
2	(専門的支援) 作業療法士が常勤しており、専門的な個別支援を提供できる体制を整えている。身体機能の土台となる体幹トレーニングや脳の処理機能を整える感覚統合療法を軸に、お子様一人一人の特性に合わせた訓練を実施している。	お子様が楽しみながら取り組めるよう、遊びの中に感覚統合を取り入れており、食事や着替え、排泄といった具体的な日常生活動作(ADL)の向上に直結するよう、本人に最適な補助具の検討や環境設定の工夫をしている。	作業療法士が持つ専門的な視点を全スタッフで共有できるよう内部研修を行う。 ご家庭とも密に連携し、生活のあらゆる場面で訓練の成果が発揮できるようアドバイスや環境調整の提案を行っていく。
3	(環境の構造化) 当事業所は広々とした多機能なスペースを確保しており、机上遊びや宿題ができる居室、ボール遊びや粗大運動ができる長く開放的な廊下、PC専用ルーム、OT訓練室と、目的別に専用スペースを完備している。	お子様の活動のON・OFFが自然に切り替えられるよう部屋分けしている。 また、車椅子ごとに入れる広いトイレが完備されており介助が必要なお子様の自立支援も広々行える。	各部屋のレイアウトを最適化してお子様より安全に過ごせるよう視覚支援など細やかな環境設定を行う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	(地域交流・保護者交流) 地域行事への参加頻度が低く、地域の方たちや地域児童との交流機会が少ない。また保護者同士が交流する機会も少ない。	普段から保護者同士が交流する機会を設けていないため保護者会を行っても参加人数が少なかったり、参加する保護者が限られる傾向にある。	3月に初めて保護者が参加できる外出支援を企画し開催することができた。
2	(視覚支援) 活動内容が基本口頭指示に偏っており、視覚的なスケジュールや活動ごとのルールを明確化するツールが足りないと感じる。	比較的軽度発達障害のお子様が多く、口頭での指示でも伝わることが多いため視覚的なツールが不足している。	個別支援計画に沿って視覚支援を行っていく。
3	(年齢や成長に合わせた療育活動の提供) 高学年以上のお様が社会生活における課題、経験のための活動や支援が不足している。	年齢の低いお子様に合わせた活動も多く社会に必要な活動が少ない。	高学年以上のお様を対象により社会的なプログラムを設定していく。